

抄録

抄録一覧

査読	著者	論文名
○	横島潤紀 他 (環境情報部)	建築物における環境振動に関する測定・分析・評価の課題と現状
	池貝隆宏 他 (調査研究部)	マイクロプラスチックに類似した海洋汚染特性を持つ物質の海岸漂着

## 建築物における環境振動に関する測定・分析・評価の課題と現状

### **Issue and current status of measurement, analysis, and evaluation of environmental vibrations in buildings : Results obtained by a questionnaire survey of measurement experiences**

横島潤紀(環境情報部)、富田隆太(日本大学)、小谷朋央貴(株式会社フジタ)、伊積康彦(鉄道総合技術研究所)

掲載誌：日本建築学会技術報告集, 24(57), 697-702(2018)

建築学会環境振動測定分析小委員会では、建築物の振動測定について種々の検討を行い、その結果を報告してきた。実際に、建築物の振動測定・分析に関しては、その方法が明確に規定されていない部分も多く、現場の実務者からはある程度統一した測定方法が求められている。このことを受けて、小委員会では、振動測定に携わっている技術者を対象に、振動測定・分析・評価の現状と課題に関するアンケート調査を実施した。本稿では、建築物の環境振動に係る測定及び分析手法のマニュアル作成にも資することを視野に入れ、アンケート調査から得られた結果を整理して報告する。

## マイクロプラスチックに類似した海洋汚染特性を持つ物質の海岸漂着

### **The drifting ashore of the substances with marine pollution properties similar to microplastics**

池貝隆宏, 小澤憲司, 朝倉純, 三島聡子(調査研究部)

掲載誌：全国環境研会誌, 43(4), 60-64 (2018)

2017年5月に神奈川県久里浜海岸で、サイズが5 mm以下及び比重が1以下のマイクロプラスチックに類似する白色固形物の漂着を確認した。この物質を分析した結果、主成分はパルミチン酸カルシウムであり、他にパルミチン酸及びパルミチン酸以外の脂肪酸カルシウムを含む混合物であることが分かった。PCB吸着量を測定したところ、その吸着量は、マイクロプラスチックのポリエチレンやポリプロピレンの半

分弱であったが、漂着量が多かったため、プランクトン食性の魚類が沿岸海域で摂食するマイクロプラスチックを含む異物に由来するPCBの経口摂取のリスクを求めたところ、ポリエチレンの約2倍、ポリプロピレンと同程度であると推定された。